

保育計画成果報告書

法人名等	社会福祉法人旭町福祉会
施設名	幼保連携型認定こども園 くじあさひ認定こども園
報告者（役職）	（理事長） 末 崎 順 一
住所・連絡先	岩手県久慈市田屋町第2地割25番地3
	☎ 0194-75-3862
	E-mail k.asahi.kodomo@road.ocn.ne.jp

○タイトル（保育計画）

お空の下で、のびのびと楽しい遊びがしたい

○主な助成備品

つり橋、安全ブランコ、ピクニックテーブル、逆上がり補助器具、アニマル遊具

1. 保育計画策定の目的

当こども園は安心・安全を基本に、こども一人ひとりに寄り添った教育、保育を実践しています。

しかし、保護者の皆様の要請に応じて、平成29年4月に開園したばかりのこども園のため、園庭の遊具が追いつかず、活動が限られたものになっていました。

限られた園庭で効果的に活用できるつり橋や安全ブランコ、ピクニックテーブル、逆上がり補助器具、アニマル遊具などにより、体をのびのびと動かし、体力や運動能力、自立性、共同性、思考力など様々な能力を育てることを目的として、保育計画を策定しました。

2. 具体的な実施内容

代表的な実施内容は、次のとおりですが、異年齢の子ども達の活動を観察し、自ら考え、進んで“したい”と思い、“遊べた、できる、楽しい”という子ども達の成長につなげてきました。

（アニマル遊具）

動物に乗りながら一休みする中で、園児同士の関わりも見られ、和やかな雰囲気で遊んでいます。遊具があることで戸外遊びの広がりが見られ、園児の楽しみとなっています。一人歩きが上手になってきた0歳児はアニマル遊具に行くと先



ずは「ワンワン」、「ガオ～」と声を発し、次に触り、そして座ろうと足を上げる行動が見られ、座らせてあげると「座れた～！」との達成感が見られようになってきました。

(安全ブランコ)

安全ラバー付きブランコは第2園庭に設置しました。第2園庭に行った際に安全に気をつけ、保育教諭がしっかり付き、1人ずつ順番に行うようにしています。まだ、「ブランコが怖い」、乗っても体に力が入り思うようにできなかったりしますが、「ブランコやりたい！」と楽しみに第二園庭に向かう子ども達です。降園した後も保護者と一緒に触れ合い楽しんでいる姿も見られます。



(ピクニックテーブル)

おままごとやお店屋さんの台にしたりしながら、子ども同士での触れ合いやごっこ遊びを楽しく進展するようピクニックテーブルを活用しています。



(つり橋)

山のつり橋は揺れるため、バランスを取ろうとする姿が見られました。最初は苦手だった園児も1回1回地面に足を置きながら取り組もうとするようになってきました。

両端からお互いに進みぶつかった所でジャンケンをしたり、つり橋の下に動物がいると仮定しながら使用したり、揺れるつり橋を障害物にしながら遊んだりもしています。



(逆上がり補助器具)

逆上がりができるようになるため逆上がり補助器具を利用して逆上りにチャレンジしています。



3. その成果と評価

(アニマル遊具)

動物に触れる機会は実際には少なく絵本や映像で知っている園児がほとんどなので、アニマル遊具は子ども達の好奇心や興味をくすぐり満たせると感じています。



戸外遊びの楽しみとして園児も期待を持っています。乗りたい動物があると保育教諭と順番を待ち、「かして!」、「いいよ!」のやり取りができるようになってきています。又、降園後の親子のふれあいの場になっており、親子で楽しい時間を過ごす様子も見られ、保護者からも喜ばれています。

(安全ブランコ)



はじめは、保育教諭が手伝ってただ乗っている程度でしたが、徐々に足を動かすことができるようになりました。順番を守ること、数を数えて順番を待つことなども子ども達は身につけることができてきました。

(ピクニックテーブル)



砂場でのピクニックテーブルは、共同性を育ててくれました。

ピクニックテーブルを使用することで、ごっこ遊びの幅が広がり、子ども同士のやり取りが弾んできていると感じています。

ピクニックテーブルがあることでより雰囲気も感じられ子ども達も楽しそうに使用しています。

(つり橋)



サーキット遊びをしていると、バランスを取れるようになってきたと感じる今日この頃です。

足のどこをつくと揺れにくくなるのかなど子ども達自身が試行錯誤しながら使用するようになり、バランスの取り方も最初の頃よりも上手に取れるように感じています。

ごっこ遊びを通して、想像力や自分達でルールを考え遊びに取り入れる力を育むことができたと感じています。

(逆上がり補助器具)



まだ完全に逆上がりができない園児は、いただいた逆上がり補助板を利用して一生懸命練習しました。最初は補助板の使い方も上手くいかなかった園児も使い方のコツを掴むと上手に補助板を利用して逆上がりができるようになりました。

多くの遊具に触れることで、興味を持ち続け、自ら考えて積極的に体を動かすようになりました。同時に、順番に遊び、特に異年齢の子ども達への思いやりの心を養うことができました。

購入した遊具は、様々な角度から子ども達が力いっぱい安全に体を動かし、のびのびとした教育・保育環境を創出しています。

こうした効果が確実に発揮できるように、今後も保育教諭、職員一同が力を合わせて取り組んでまいります。

4. 今後の課題と展望

(アニマル遊具)

遊具が増えたことで、園児たちも生き生きと過ごしています。のびのびと体を動かし適度な休息を取りながら体づくりを促していきたいと考えています。

(安全ブランコ)

年齢が上がってくると、平衡感覚を養えたり、重力なども実感することができるようになるかと考え、積極的に遊びに取り入れたいと考えています。

(ピクニックテーブル)

男女問わずピクニックテーブルを囲み（座り）、それぞれのイメージ、会話のやり取りを共感・共有し、ごっこ遊びがのびのびと広がっているので今後も遊びが発展して行けるようにピクニックテーブルの場所を臨機応変に設置するなど変化を加えながら活用していきたいと考えています。

(つり橋)

グラグラ揺れるつり橋はスリルがあり、子どもの冒険心を掻き立てます。今後も楽しく遊びながらバランストレーニングに取り組んでいきたいと考えています。

(逆上がり補助器具)

逆上がりには独特のコツがあり、できる子はできるしできない子はできないという最初のハードルが高い運動です。しかし一度でも逆上がりに成功すると「やればできるという体験」になり、子どもにはとても嬉しい出来事であるのは間違いないことであると考えますので、今後も逆上がり補助器具を十分に活用して子ども達の自信に繋げていくよう取り組んでいきます。

今後も、運動遊びを通じて、健康で活動的な子ども、思いやりのある明るい子どもを育み、よりよい保育の充実に努めて参りたいと思っています。

また、園庭開放により地域の方々にも使っていただき、地域の福祉向上に努めて参りたいと考えております。

以上